

イネ科植物 ～おもしろさと調べ方～

西野 雅満
(植物リサーチクラブ)

はじめに

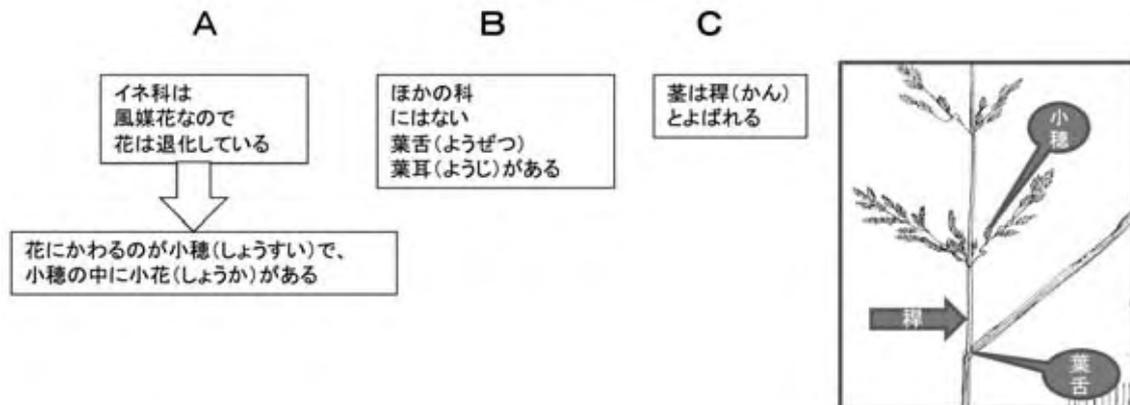
イネ科植物には以前から興味を持っていた。しかし、観察会などでもあまり取り上げられず、そして観察会に共に参加している先輩方に聞いてみても「イネ科は分らない」との答えが返ってくる事が多く、それでは自分でイネ科を調べてみよう、と思い立った。

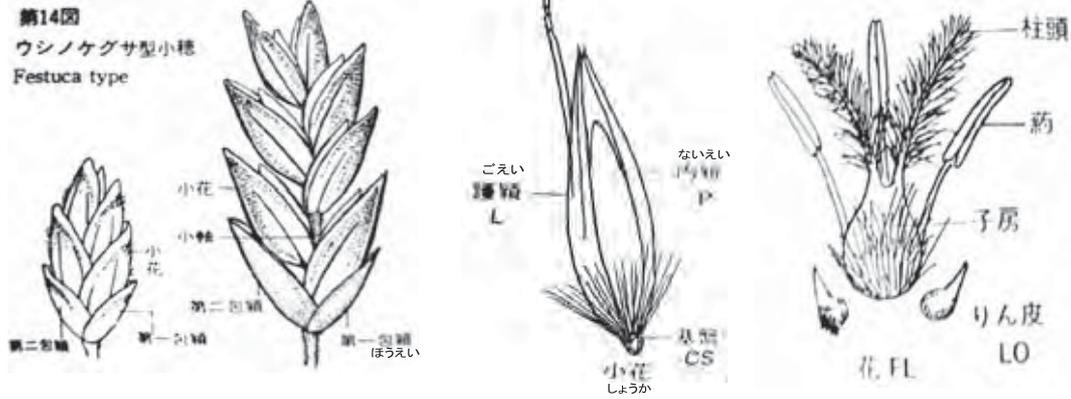
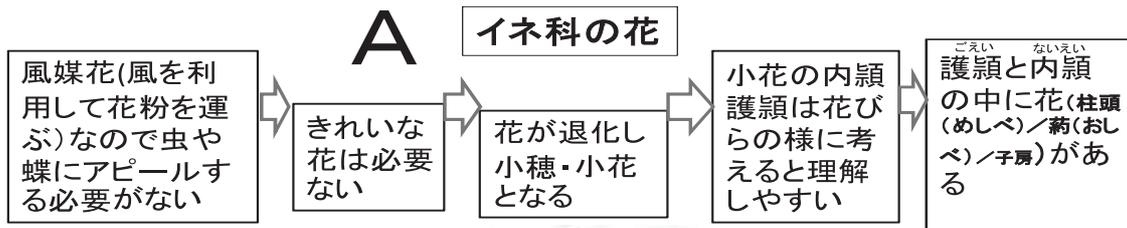
観察方法

1. 「根茎」や「匍匐茎」等の有無を調べるために「根」から採集して、「場所」「年月日」「生育環境」(草原か、人家に近いか、水湿な所か、山間部かなど)を記録した。
2. 対象の植物を二点採集し、一点はその場で押し花に、もう一点は、持ち帰り、図鑑で調べる時に使用した。
3. 「小穂」の大きさ、数、形、色等、また「苞穎」や「護穎」や「内穎」の中央脈、中脈、縁脈等の‘毛’や‘とげ’や‘のぎ’の有無や相違点などを顕微鏡で観察した。また、「葉舌」の質や形を観察した。
4. イネ科専門図鑑と一般の図鑑を使用した。とくに小穂の部位の名称については図鑑により違いがあるので注意が必要。

用いた図鑑：「増補日本イネ科植物図譜」(平凡社)、「日本の野生植物Ⅰ」(平凡社)、「大井日本植物誌」(至文堂)、「清水 原色新日本植物図鑑」、「牧野新日本植物図鑑」(北隆館)「野に咲く花、山に咲く花」(山と溪谷社)、「日本帰化植物写真図鑑」(全農教)

イネ科の特徴

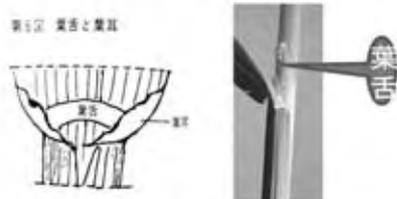




日本イネ科植物図譜より

B **葉舌(ようぜつ)葉耳(ようじ)**

葉鞘の上縁にある膜状の部分



日本イネ科植物図譜より

C **稈(かん)**

イネ科の稈は竹のように中空

稈の横断面



私を感じるイネ科のおもしろさ

- ①アマチュアでも参加できるおもしろさ
- ②同じ種に同定されていたものが違う種にされてしまうおもしろさ
- ③学者間で意見が違う種があるおもしろさ

ハガワリトボシガラについて (アマチュアでも参加できるおもしろさ)

ウシノケグサ属の中に「ハガワリトボシガラ」という種がある。図鑑によると、本種は中部地方に分布する種とされるが、西日本にはあるともないとも書いてない。

昨年、私は多紀連山で「ハガワリトボシガラ」とみられる植物をみつけた。それが本当に本種かどうか調べて植物誌に発表できないかと思っている。今年度も引き続き調査し、より明らかにしていきたい。

イネ科はまだ未開の部分が多くあり、アマチュアでも、分布状態の変化を見つけたり、新種を発見したりするたのしみがあり、だれでも参加できるおもしろさがあります。



ミスジナガハグサについて（同じ種に同定されていたものが違う種にされてしまうおもしろさ）
 ナガハグサによく似た種としてミスジナガハグサがある。これは森茂弥氏が神奈川県植物誌（1988）作成の過程で、ナガハグサとされていた標本の20%が誤同定であることに気づき、ミスジナガハグサとして新称した種である（増補日本イネ科植物図鑑2002）。

「人と自然の博物館」に收藏されているナガハグサをしらべたところ、14点中3点ミスジナガハグサの特徴がみとめられた



人と自然の博物館の収蔵庫より

タチカモジグサについて（学者間で意見が違うおもしろさ）
 タチカモジグサをアオカモジグサの変種として認める学者と認めない学者がいる。

